

Game生活の ススメ Vol.158

シンプルなルールで小学生くらいから楽しめるゲームを2種類紹介します。データに基づき論理的に推理するのが、気配や自分の勘を頼りに動くのが、両極端なゲームです。

2は2枚見えているので残り0、1、4、5、6は1枚ずつ、3、7は2枚ずつ残っているまでは分かるけど... ややこしい。次の人が何の数字を言うのかで分かるかも。



『推理と予測』の巻』



ドメモ (木製)

¥2,530 (株式会社クロノス)

相手の数字や会話のやりとりから、自分のタイルの数字を当てていく、論理的・推理ゲームです。故アレックス・ランドルフの名作のリメイクです。

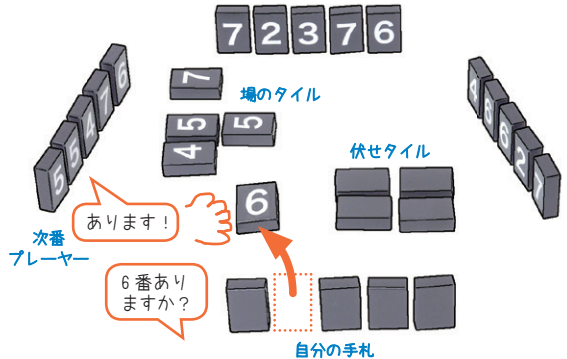
・人数: 2~5人 ・対象: 6歳位から ・時間: 15分位
数字タイル 28枚
(タイルの内訳: 1が1枚、2が2枚...7が7枚と、数字=枚数)

各自、場と他プレイヤーのタイルの数字が見えている状態です。

準備

28枚のタイルを裏向きにして良く混ぜ、手札と場に配分します。(枚数は下表) 自分の手札タイルは自分だけにだけ見えないように立てます。

プレイヤー人数	1人の手札枚数	場のタイル枚数	伏せタイル枚数
2人	7枚	7枚	7枚
3人	7枚	0枚	7枚
4人	5枚	4枚	4枚
5人	4枚	4枚	4枚



遊び方

自分の手札の中にあると思う数字を推理し、ひとつ言います。その数字タイルがある場合、次番の人が正解のタイルをひとつ取って場に出し、並べてあげます。

複数枚あっても、何枚あるか言わずに、そのうち1枚だけをとります。

2、3人の場合: タイルを場に出すことができれば、続けて自分の番を行います。
4、5人の場合: タイルを場に出せても、出せなくても、次の人の番になります。

自分のタイルを全て場に出せることができれば勝ち抜けです。最後の一人まで順位を決めます。



ザ・マインド

¥1,760 (Nuernberger/ドイツ)

お互いのカードの数字を秘密にしながら、数字が大きくなるように、場に出していきましょう。プレイヤー全員が1つとなり、集中することが重要なゲームです。

・人数: 2人~ ・対象: 8歳位から ・時間: 15分位
数字カード(1から100) 100枚、レベルカード(1から12) 12枚
ライフカード 5枚、星カード 3枚

準備

レベル1では、各プレイヤーに1枚ずつ、レベル2では2枚ずつ、数字カードを配ります。最初に配る枚数を増やすことでゲームの難易度(レベル)が上がります。遊ぶ人数に合わせて、ライフカードと星カードを、最初に数枚ずつ場に並べます。



ライフカード

誰かが間違えたとき、ライフカードを1枚使うことで、途中から継続することができます。



星カード

誰かがストップをかけ、星カードを1枚使うことで、各自一番小さいカードを1枚ずつ捨てた後、ゲームを再開することができます。

遊び方

自分の数字カードを各自確認し、全員の心の準備ができれば、ゲーム開始。

手札の数字を言ったり、見せたり、サインなどで伝えてはいけません。

自分のカードが一番小さいと思った人が最初に、2番目に小さいと思う人が2番目に、というように、次々とカードを出していきます。



数字が大きくなる順番で、全員手札を出し切ることができれば、レベルクリアです。

誰かが間違えた順番でカードを出してしまったら、ゲーム失敗。最初からやり直します。

最初に配る枚数を増やし、ひとつ上のレベルに挑戦しましょう。大人気で遊んでも楽しい!

